令和７年度 学力向上のための重点プラン【中学校】　新宿区立四谷中学校

■　学校の共通目標　　【ＨＰ公開用・様式１・令和７年５月９日】

授業作り	重点	基礎・基本の充実を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びで創る授業の実現。
環境作り		・ICT 機器・タブレット端末の使用を意識した、授業スタンダードの確立。 ・デジタルドリル等のデジタル教材の活用。

■　各教科の取組について

教科	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子などから）	目標達成のための取組
国語	・昨年度の新宿区学力定着度調査で、すべての項目で区平均を上回っている。基礎と応用では、基礎の力のほうが定着していない。 ・言葉・情報・言語文化の項目をさらに伸ばしたい。	・毎日の授業を大切にし、授業で学んだ学習内容を確実に定着させることを目標とする。 ・スピーチ・発表活動・協働学習を通じて、自己表現力・コミュニケーション力を付ける。 ・教科書に載っている言葉から派生してさまざまな言葉を知る機会をつくる。	・こまめに課題を与える。評価・点検をきちんと行っていく。生徒の意欲を引き出す授業を行う。 ・スピーチなどの発表活動や協働学習を日常的に数多く行う。タブレットを使用し、視覚的な要素も含めて自己表現力や発表力をつけさせる。 ・語彙力を増やすために、辞書をひく習慣をつけさせる。漢字の読みや書きについてはデジタルドリルで復習をはかる。
数学	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、２学年については、正答率が区平均と比べて高く、特に、基礎的な内容については+6.5 となっており、基本的な計算や知識が定着しているといえる。一方で、応用については、区平均よりは高いものの、差は僅かであった。 ３学年は、正答率が区平均と比べて低く、特に、図形やデータの活用を苦手としている生徒が多かった。また、昨年度に比べて、Ｃ層とＤ層の生徒の比率が高くなった。	・習熟度別授業の特性を生かし、基礎力が定着している生徒には自分の考えを表現する時間を十分に設ける。一方で、基礎基本が十分に定着していない生徒については、デジタルドリル等を活用して、反復練習の機会を日々の授業でも設ける。 ・基礎的な計算能力を伸ばし、思考力・判断力・表現力につながる力を付ける。 ・図形やデータの活用の分野については、日常生活で活用できる場面などを授業の導入に活用したり、課題を視覚化したりして、生徒が興味・関心をもちやすいように工夫する。	・自分自身の考えをまとめる時間を十分に確保し、協働的な活動の時間を設ける。 ・小テストなどを定期的に行い、基礎的な知識・技能の定着を図る。

理科	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、以下の分析を行った。 ・第３学年では、基礎的な内容については+6.4であったが、応用的な内容では+0.7にとどまっている。	・毎時間の授業で、基礎力の定着を目指すとともに、協働的な学習等を通して科学的な思考力の育成を目標とする。	・第２学年では、重要語句の反復学習を授業開始時に行う。 ・課題を設定し話し合う学習を通して、科学的な思考力・判断力・表現力を高める。 ・ワークやデジタル教材を用いた学習を計画的に行う。
社会	昨年度の新宿区学力定着度調査の結果から、以下の分析を行った。 ・「知識・技能」と比較して「思考・判断・表現」について正答率が低い傾向がある。 ・「地理的分野」と比較して、「歴史的分野」の正答率が低い傾向がある。 ・2年生は応用力に比べ、基礎力が3年生は基礎力に比べ応用力が低くなっている。	・社会的事象を理解するだけでなく、なぜそのようになったかという因果関係についても追究する力を付ける授業づくりをしていく。 ・歴史的分野の授業に意欲的に取り組ませる授業づくりをしていく。 ・特に２学年では、応用力を高める機会を多く設ける。 ・特に３学年では、基礎を復習する機会を多く設ける。	①発問やワークシートの工夫 ②思考ツールの活用 ③グループによる活動型授業 ④実際の社会につながる授業
英語	昨年度の新宿区学力定着度調査において、以下の分析を行った。 ・第2学年は区の平均と同等であった。知識・技能が+1.3、「聞くこと」が+2.7と高い数値を示している一方で、思考・判断・表現が-1.3、「読むこと」が-1.5、「書くこと」が-1.3となっており、応用力や、読むこと、書くことの力の育成が求められる。 ・第3学年は「読むこと」のみ+1.1であったが、それ以外は全てマイナス数値であった。区の平均からも-2.4となっている。まずは基礎知識の定着が急務である。	・基礎知識、文法事項の定着。 ・「聞く」力の向上。 ・「書く」力の向上と自己表現をする取り組みの強化。	・教科書の太字の新出単語を中心に、基礎単語を小テストなどを通じて覚えさせる。文法事項は単元で学習した後も帯活動のスピーキング練習などで繰り返し学べるようにする。 ・言語の定着において「聞く」力は欠かせない。ALT と話す機会を増やしたり、授業者の授業内での英語の発話を50%以上にする。 ・「書く」力は両学年において改善が求められる。書く力を通して自己表現力を高めるため、自分の意見や考えを書く機会を増やしていく。